

国会における関連の審議の状況について（抜粋）

○今後の政府の取組について示しているもの

- 総理大臣 国土交通省においても新たに検察OB、法律の専門家も踏まえた第三者委員会をつくり、そして総務省においても統計委員会という第三者委員会においてしっかりこれ検証をし、そして再発防止に向けて、そして信頼回復に向けて努力をしていかなければならないと認識をいたします（12/16 参・予算委 木戸口 英司議員の質問への答弁）。
- 総理大臣 公文書あるいは統計というものは、現在、未来の国民に対する政府の説明責任を果たすために重要なものであり、民主主義の根幹であると思います。こうした大切な統計あるいは文書に関する様々なこの不祥事についてしっかり反省し、二度とこうしたことが起こらないためにはどうしたらいいのか、これを真剣に考えていく。私の政府においてもしっかりそれを行っていきたいと考えます（12/17参・予算委 小池 晃議員の質問への答弁）。
- 総務大臣 今後一か月以内に取りまとめる国土交通省における第三者委員会の報告を受け、統計の専門家による第三者委員会である統計委員会の専門的な知見もいただきながら、政府統計への信頼を取り戻すべく、しっかりと取り組んでまいりたいと思います（12/20 参・総務委 伊藤 岳議員の質問への答弁）。
- 総務大臣 国土交通省からの8月20日の報告は、会計検査院からの指摘を受けて必要な改善を行ったというものであったために、総務省としては特段の対応を行っておりませんでした。総務省としては、当時のこういった判断も含め、今後、統計の専門家による第三者委員会である統計委員会において精査してまいりたいと考えております（12/20 参・総務委 伊藤 岳議員の質問への答弁）。
- 国土交通大臣 総理からの指示を踏まえまして、統計の専門家だけではなく元検事や弁護士を入れた第三者委員会を私の下に立ち上げます。第三者委員会においては、経緯や原因の検証を行った上で1か月以内にまとめていただき、その結果を統計委員会に報告し、再発防止及び政府統計の信頼性確保に向け取り組んでいきたいと思っております（12/20 参・予算委 森本 真治議員の質問への答弁）。

○総務省に対する指摘等

- 国の基幹統計をめぐっては、三年前に厚労省の毎勤統計の不正が発覚し、そのとき全ての基幹統計を対象に一斉点検が行われたはずであります。そのときになぜ見つけられなかったのか。3年前の一斉点検でなぜ見過ごされたかしっかり検証する必要がある（12/15 衆・総務委 宮本 岳志議員の質問）。
- （国土交通省から会計検査院の検査報告書に関して報告を受けた令和3年8月20日の時点で）監督する総務省としても何かアクションを起こさないといけなかったのではないですか（12/15 衆・総務委 吉川 元議員の質問）。
- 統計の司令塔である総務省、統計委員会として直ちに問題を究明することこそ問われていると思います（12/20 参・総務委 伊藤 岳議員の質問）。
- 今回はデータそのものを消しゴムで消して書き換えるという、こうしたことが仮に起こっていたとしたら前代未聞の事態ですし、統計法を所管する総務省としても、こうした事態が起こったこと、これをどのように受け止めておられるのか、そして今後どのような対応をされていこうとしているのか（12/15 衆・総務委 吉川 元議員の質問）。